

科目名	経済学演習	単位	教員名	仲間 瑞樹
		6単位	開講曜日時限	未定

【主題と概要】

この演習では大学院修士課程レベルかつ経済系分野（ミクロ経済学・マクロ経済学）で必要な理論モデルについて学び、英文の学術誌論文の輪読に結びつける。

【到達目標】

大学院修士課程レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の各種理論モデルを自力で扱えるようになること。
英文の学術雑誌を自力で読みこなせるようになること。

【提出課題】

宿題を複数回予定している。
学期末レポートを予定している。

【課題（レポートや小テストなど）に対するフィードバック方法】

宿題の返却と解説を実施する。

【評価の基準】

出席（欠格条件）
宿題の提出 40%
学期末レポート 60%

【履修にあたっての注意・助言他】

経済数学（線形代数、微積分）の知識を前提とする。
学部上級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識を前提とする。
英文テキストを利用する。受講者の予備知識の度合いによっては、学術論文の輪読の回数を増やす場合もある。

【教科書】

Blanchard,O.J and Fischer,S.(1989) Lectures on Macroeconomics, MIT Press
Varian,H. (1992) Microeconomic Analysis, Norton.

【プリント資料及び参考文献】

必要に応じて資料の配布、参考文献を紹介する。

【授業計画】

【準備学習（予習・復習など）の具体的な内容およびそれに必要な時間】

予習 2時間程度
講義内容の復習 2時間程度
宿題 1時間程度

【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】

【科目の位置づけ】

【双方向授業の実施およびICTの活用に関する記述】

論文輪読を行う。
クリッカー機能を使う場合もある。

【実務経験の有無及び活用】

特になし

【備考】

【その他（添付ファイル）】

オフィスアワー			
研究棟	II	研究室 No.	
曜日	時間帯		
火	13時30分から14時30分		

科目名	経済学演習	単位	教員名	
		6単位	開講曜日時限	未定

【授業計画】

- (1) 連続型モデルの基礎
- (2) 連続型モデルの基礎
- (3) 連続型モデルの応用
- (4) 世代重複モデルの基礎
- (5) 世代重複モデルの基礎
- (6) 世代重複モデルの応用
- (7) 消費者理論
- (8) 消費者理論
- (9) 消費者理論
- (10) 生産者理論
- (11) 生産者理論
- (12) 生産者理論
- (13) 英文論文の輪読
- (14) 英文論文の輪読
- (15) 英文論文の輪読

【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】

経済学の理論モデルの学習、論文輪読から論理的な思考を養うことによって、高度専門職業人として必要な実践的、課題解決的な能力を身につけることに貢献できる。

【科目の位置づけ】

本科目は経済系の分野かつ理論モデルを扱う分野で修士論文を作成する大学院生に適した科目という位置づけになる。

オフィスアワー

研究棟		研究室 No.	
曜日	時間帯		